

スペシャルオリンピックス世界大会視察記(1)

25年3月8日―15日)を視察しました。

きっかけは、昨年度名寄市で行われたスペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲームが終わった後、日ごろからお世話になっている

SON北海道の副理事長である樫山雪枝さんにお声がけいただいたことでした。

世界大会と日本の違いを自分たちの目で直接確かめたいという思いから、視察を決意しました。

イタリアの空港に到着すると、現地のボランティアの方々

が温かく迎え入れてくれました。言葉の壁に戸惑いながらも、ジェスチャーや知っている単語を使

って何とか話しかけると、笑顔で応じてくれて嬉しかったです。

街を歩いていると、いたるところに大会の広告が掲示されており、買い物中に店員さんがス

ペシャルオリンピックスのロゴを指さして話しかけてくれるなど、街全体で大会を盛り上げようとする雰囲気

が伝わってきました。

開会式の会場に入った瞬間、青い照明に包まれ、普段は感じられない神秘的な空気を体感しまし

た。開会式が始まると、各国の選手団が楽しそうに入場し、出身国に関係なく会場全体から大きな歓声

が上ががり、とても感動的な光景でした。

また、他国の選手同士でハイタッチをするなど各国の素敵な交流の様子もみられました。

開会式後には、バスに乗った選手団に配布されたぬいぐるみを持って、

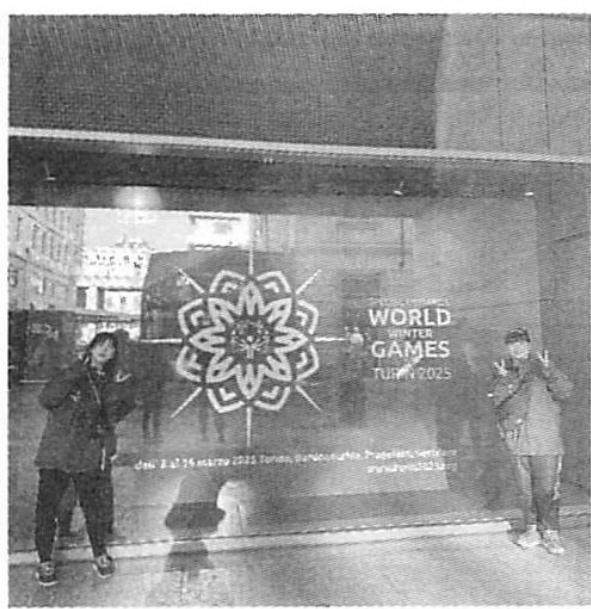
挨拶をし、言葉がなくても交流ができるのだと実感しました。

大会の競技は全競技ありますが、私たちはスノーシューイング、フィギュアスケート、フロアボールの3つの競技の練習風景を見ることができました。

普段はユニークなアスリートたちも、練習が始まると真剣な表情に変わり、成功した

り得点が入ったりすると仲間同士で喜び合う姿が印象的でした。

今大会を通して、



お店のスタッフ、街の雰囲気、会場の様子などから、日本とイタリアにおけるスペシャルオリンピックスの認知度の違いや、障がいのある方への捉え方の違いを肌で感じることができました。

学生という立場で今私たちにできることは、サークル活動

が今後も継続していくようにすること、そして1人でも多くの方に関心を持ってもらうために、地域に向けた情報発信を積極的に行っていくことだと考えています。

社会福祉学科4年 兼田風和里
玉木美翔